



だっこ通信 第10号

2021. 5月発行



① いじょうぶ・② つながる・③ そだて



あるある話「体罰によらない子育てってどうしたらいいの？」

2020年4月から、たとえしつけのためだと親が思っても、身体に何らかの苦痛を引き起こし、または不快感を意図的にもたらず行為は体罰とされ、法律で禁止されました。例えば「言うことを聞かないので頬を叩いた」「大切な物をいたずらしたので長時間正座をさせた」「他人の物を取ったのでお尻を叩いた」などは体罰に当たります。怒鳴りつける・暴言を吐く・バカにする・拒否的な態度をとる等も子どもの心を傷つける行為です。一見、体罰や暴言には効果があるように思えますが、子どもは叩かれた恐怖からそのように行動しているだけ。叩かれることはとても怖く、時には心に大きなダメージをもたらします。言葉で理解させるのが難しい年齢の場合、「顔の表情と声で示す」という方法があります。



顔の表情と声のトーンを変える

叱るとき・注意するとき

怒ってますオーラ

真剣に怒っている顔

声のトーンは下げる ↓



メリハリをつけて

褒めるとき・喜ぶとき

にこにこオーラ

満面の笑顔

声のトーンは上げる ↑



★本日のお題

叱るときは毅然と、褒めるときは満面の笑みで

体罰や暴言で言うことを聞かせるのではなく、低い声&毅然とした表情で叱りましょう。「なんかいつもと違う」「これはまずいぞ」と子どもがハッとするくらいに。すぐに効果が出なくても、あきらめず続けてください。繰り返すことで、じわじわと定着していきます。そして少しでも良い変化が見られたり約束が守れたりしたときは、高い声&満面の笑顔で褒めましょう。言葉での理解が難しい1~2歳の時期は、「顔の表情&声のトーン」は重要なアイテムとなります。



発行者: さくら市生涯学習課(担当 鈴木)